

## 炭素成分測定法マニュアルの変更点（初版からの変更）

1. DRI 社製及び Sunset 社製炭素分析装置の両方に対応するように変更した。
  - P.2～ 2.1 分析装置 (8)使用ガス類
  - P.7～ 4.3 機器の校正及び検量線の作成 4.3.1 校正
  - P.8～ 4.3.2 検量線の作成の手順
  - P.15～ 7.5 装置の感度変動
  - P.16 注 2 (CO<sub>2</sub> 標準ガスの導入法についての注釈)
  - P.17 注 5 (標準ガス及び標準溶液を用いた校正についての注釈)
  - P.18～ 注 7 (触媒の確認方法についての注釈)
2. 炭酸塩炭素分析の注意点を追加した (3.試薬、6. 測定妨害事項と対策)。
  - P.17 注 3 (炭酸塩炭素分析についての注釈)
3. ガス流量の調整とリークチェックについてより詳しい説明を追加した。
  - P.6 4.1.3 ガス流量の調整とリークチェック
4. 分析開始時の炉の温度について説明を追加した。
  - P.7 4.2 試料の分析 ⑤
  - P.17 注 4 (分析開始時の炉内温度についての注釈)
4. 参照資料 (NIST RM8785) について現状を踏まえ見直した。また、標準物質に関する記載を他のマニュアルと統一した。
  - P.8 4.3 機器の校正及び検量線の作成 4.3.1 校正
  - P.16～ 7.6 条件の検討及び測定値の信頼性の確認
5. 検出下限値及び定量下限値についての考え方を示した (7.1 検出下限値及び定量下限値の測定)。
  - P.17～ 注 6 (炭素分析における検出下限値及び定量下限値の求め方とその扱いについての注釈)